



# 校長室だより 2

黒部市立荻生小学校  
文責：校長 寺島紀子  
令和5年11月16日  
5年度第22号

## 自分から進んで行動する！ ボランティアの楽しみ

### ★時には休んでも、もちろん大丈夫ですよ

この季節に朝、6年生の有志が落ち葉掃きをしてくれているのは以前もお知らせしたとおりですが、こちらが「ありがとう」を言い過ぎたからでしょうか、先日「あの、今日は落ち葉掃きをちょっとお休みしてもいいですか？」と聞かれてしまいました。「もちろんです！ だってボランティアですから。できるときにまたお願いします」と私は返しました。

「ボランティア」の本分は自分から志願して行動すること。いわゆる「奉仕活動」とは違うと私は考えています。「みんなのために」というよりは「自分自身のために」、楽しく進んでできればそれでいいと思います。そういえば朝のあいさつボランティアも、参加している子供たちがいつも一番楽しそうです。

### ★「もっとやりたい！」を行動にうつして、もちろん大丈夫ですよ

6年生は総合的な学習の時間のテーマを「チャレンジ ボランティア」として、学校や地域に向けてできることを考えて行動しています。先週8日（水）は荻生保育所を訪問して小さい子供たちとたくさんふれあってきました。担任の岡本先生によると日頃の学校生活とはひと味違う子供たちの一面がたくさん見られたそうです。そして終わった途端、「楽しかった、もっとやりたい、またやりたい」という声が子供側から盛んに挙がったとのこと。「それで、もう1回保育所訪問をしてもよいでしょうか」との岡本先生の質問に、「もちろんです！ 自分たちからやりたいと思ったその思いを大切にしてください。保育所に相談してみるといいですよ」と私は答えました。

## 2つの大きな表彰がありました

### ★創意工夫活動が認められ「大谷科学賞」を受賞しました

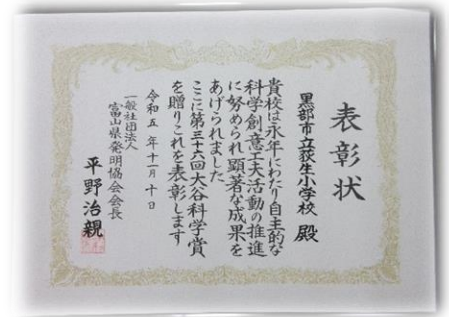
去る10日（金）、県庁にて「第36回大谷科学賞」の表彰式が行われ、本校を含めた小中高7校が表彰を受けました。荻生小学校はここ数年間、児童の作品が「富山県発明とくふう展」や「富山県未来の科学の夢絵画展」等で県知事賞や優秀賞等にたびたび入賞しています。また、総合的な学習の時間やクラブ活動を通して、一人一人が気付き、考え、工夫する姿勢を大切に学習に取り組んできました。そうしたことが認められての受賞となりました。とても喜ばしいことです。なお今回、副賞として顕微鏡や電子てんびん等、20万円分の商品をいただけることになりました。後日学校に届く予定です。楽しみです。

### ★15年間の短歌の取組に対して、感謝状をいただきました

もう一つ、これは先月のこととなりますが、富山県ジュニア短歌大会の15回目を記念して、北日本新聞社と県歌人連盟から本校が感謝状をいただいています。過去14回分も合わせ、本



校が数多くの入賞作を出していることから、県内3つの優秀校のうちの1校として選ばれました。去る10月の第15回大会でも6名が大きな賞をいただけてきましたが、今回の感謝状で短歌づくりは長年にわたり息づく荻生小の文化なのだなど再認識しました。大切にしていきたいものです。



★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。



## 11/9(木)カターレ選手による「夢教室」

カターレ富山 GKの平尾駿輝選手のお話を3・4年生が聴きました。「昨日の自分と比べてときに、何か1つでも成長させること」「周りの人に感謝しながら夢を追いかけてください」といった大切な言葉がいくつもちりばめられたお話でした。質問タイムや感想タイム、その後のサイン会!!と、荻っ子と平尾選手の交流が続きました。さわやかで前向きな平尾選手のことを応援したくなりました。

カターレ富山と夢教室サポート企業のスギノマシンからプレゼントもいただきました。



### シリーズ「教室におじゃまします」11/13(月)4年算数科の巻

4年生の図形の学習では平行四辺形やひし形、台形といった平面図形を学します。その前段階として、直線の平行や垂直の関係について理解するのが今回の学習でした。苦手意識やノートを書くのを面倒がる子のために、松島先生は自作のワークシートを毎時間用意して授業を行います。まず、平行な3本の直線に斜めの直線が交わるときにできる角の大きさを調べます。分度器を当てて細かい数字を正確に読み取ろうとする子供たち。一生懸命です。「みんな60°!」と声が上がります。

「ほかにも斜めの線を引いて角度を調べてみて」と先生が促します。「たぶんまた3つとも同じ」という予想をもちながら調べていきます。中には分度器の使い方があやふやだったり、答えが不安で先に進めなかったりする子もいましたが、その都度先生に教えてもらったり、近くの子をのぞき込んだり答え合わせをしたりしながら、少しずつ自信をもって次の問題へと進んでいきました。「分かりたい」という気持ちが感じられます。

次は、平行な2本の直線のはばを調べてみる問題でした。これも一人一人、ワークシートをフル活用しながら学習を進めます。分からないときは「分からん!」と言い合いながらも、最終的には「どれも同じ長さ!」「長さが等しい!」など、それぞれの今日のポイントを確認できました。子供たちも先生も頑張っています。



**おまけの<ひとりごと>** カターレの平尾選手は小さい頃からサッカーをしていたものの、高校までは特にサッカーの名門校ではなく、目立った戦績もなかったとのこと。しかし高校卒業後の進路を考えたときに「やっぱりサッカーがやりたい、自分もできるかも」と思い、入団できるチームを探したとのことでした。その結果、コーチに勧められ、カターレに入団しました。大阪の親元を離れた今になって両親への感謝の気持ちが湧いてきたそうです。「周りの人に感謝しながら夢を追いかけてください」との言葉に実感がこもっていたように感じました。笑顔が素敵で自然体。20歳の若々しい平尾選手でした。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。

校長室だより第22号への感想

年 児童名